

健康 歳時記

南陽山勝光寺（大分県）の住職、南慧昭（みなみ・えしろう）

和尚さんとハグ

さんは、全国を回って行う「出前歌說法」で知られる。名物和尚さんだ。

んぐだ。

南さんはここ数年、

会場を訪れる人の動き

ど、通常ではありえなく、歌いながらこの世

に大きな変化を感じて

かし、仏教の先生

の問題を考えていこう

が集まって

きて、サイ

ンと同時に

「ハグして」と黄色い

いるそうだ。それは「ハ」ともいえる僧侶とのハグを要求されること。グを望むという人は意歌說法を終えて帰ろう外と多いのかもしれない。すると、70〜80代のい。さらに、南さん老婦人たちが集まってきて、サインと同時に「ハグして」と黄色い

近に感じやすいのだろう。南さんは1人ずつハグしながら、「いつまでもお元気で」とエールを送るそうだ。



僧侶とハグをするのは、難しい法話ではな

一石二鳥だという。

（サイエンスライター

・加賀野有理、イラスト

ト・山本祐司）

健康 歳時記

大分県にある南陽山
勝光寺の住職、南慧昭
(みなみ・えしろう)

和尚さんの経歴

さん。仏の道を説くか
たわら、全国どこにで
も出掛け、「出前歌説
法」を披露することで
知られる。

南さんは僧侶になる
前は東京の会社員だっ

た。しかし、勝光寺の
長男として生まれたか
らには、いずれ寺を継
がなければならぬと
考えていた

そうだ。

そこで定

年と同時

に、駒沢大

学仏教学部

に入学、仏

教について

本格的に学

んだ。歌説法というユ

ニークな布教活動も、

南さんが長い間、社会

という「現世」と関わ

しみやすい曲が多い。

会場はいつも立ち見がい

出るほどの盛況だ。「歌

っているときは、その

歌を聴いたり覚えたり

した頃の良い思い出が

頭の中に広がります。

それが脳を刺激して元

気になれるのでしょ

う」と南さんは話す。

5月18日は釈迦の生

誕を祝う「花まつり」。

勝光寺では歌説法が行

われる。

(サイエンスライター

・加賀野有理、イラ

スト・山本祐司)

